

大阪医療品卸商組合前組合長 宇都宮製作会長

大西健路氏 旭日双光章受章記念祝賀会開く

医療品業界の発展に寄与

「大西健路氏(大阪医療品卸商組合前組合長、全国医療品卸商組合連合会元副会長、宇都宮製作会長) 旭日双光章受章記念祝賀会」が2月25日、大阪市北区のリーガロイヤルホテル大阪で、150人臨席のもと盛大に開催された。大西氏は、多年にわたり医療品業界の発展に寄与した功績が認められ、令和7年秋の叙勲に際し旭日双光章の栄章に浴された。この栄章を称え発起人(大阪医療品卸商組合役員7人)代表・松浦由治(全国医療品卸商組合連合会会長、大阪医療品卸商組合前組合長)、禰其誠、谷村明信、阪田義忠、小川喜一郎、小島伸介(谷口晴紀)が集い受章記念祝賀会を開いた。

式典の冒頭、発起人代表として松浦氏があいさつに立った。まず、宇都宮製作の功績について「他社にさきがけて極薄の衛生用手袋を開発して多くの医療機関や食品工場、介護施設などに導入、感染対策に高く評価されてきた。数年前の新型コロナウイルス禍では、厚生労働省と契約し物資不足の中、必要数をしっかりと確保して納入し、厚労省から感謝状を授与されるなど社会に大きく貢献した」と説明した。

大西氏については「1987年に入社し、当時は経営再建中で当時の社長の右腕として業務改革を担当され、見事に業績を回復された。1990年に社長に就任され、初めて経営方針発表会を開催し、社是や経営理念も設定され、経営者と従業員の距離を縮め、全社一丸となって事業に進んだ。その後、生産拠点の強化、介護事業への進出と数々の施策を実行し今日の宇都宮製作の社業発展の礎を築かれた」と称えた。

大阪医療品卸商組合については「2008年から2015年まで7年間にわたり組合長を務められた。その間、組合の基幹事業である西日本医療品総合展示会を毎年開催し、医療品メーカーの数多くの商品の周知に尽力し、医療品業界の発展に寄与された。さらに、兵庫組合、中部組合を大阪組合へ統合して広域団体に成長させた。2011年の東日本大震災の折には組合員各企業を取りまとめ、3000万円相当の救済物資を調達して、岩手県の被災地に提供した」と述べた。

最後に「その強いリーダーシップと先見性をいかし、医療衛生事業に大きく貢献した功績が今回の栄章である旭日双光章受章につながった。今後もご健勝で益々の活躍を祈念するとともに、我々に指導賜りたい」と切に願った。

大西氏については「薬物乱用防止に係る啓発資材を大阪府に寄贈した。また、新型コロナウイルス感染症が感染拡大した際には医療品の安定供給に尽力いただき、献身的な努力と迅速な対応により医療介護の現場を力強く支えていただいた。今後とも健康に留意の上、卓越した見識と指導力をもって、さらなる医療品業界の発展にお力添えをいただきたい。さらに、大阪府薬務課の良きアドバイザーとして未永く助言を賜りたい」と要望した。

同じく、一般社団法人日本衛生材料工業連合会の天田泰正会長が祝辞を述べた。大西氏について「業界団体の要職に精力的に務められた他、一般社団法人芦屋力ンツリー倶楽部の理事長にも就任されるなど、業界発展はもろもろのことあらゆる社会貢献にも尽力されている。大西会長は42歳の時、6代目の大西浩太郎現社長は41歳の時に、それぞれ社長に就任され、その時代時代に合った経営手腕を発揮されている。まさに外部環境が変化する中での企業の存在意義、社会貢献、業界発展の寄与、これを大西会長はじめとする歴代の経営者が全社一丸となりの有言実行されてきたことが評価される。創業123年を迎える宇都宮製作様が1(ワン)2(ツー)3(スリー)とさらなる繁栄を祈念するとともに、今後も業界発展につながる活動を通じ我々に指導賜りたい」と話した。(2面つづく)

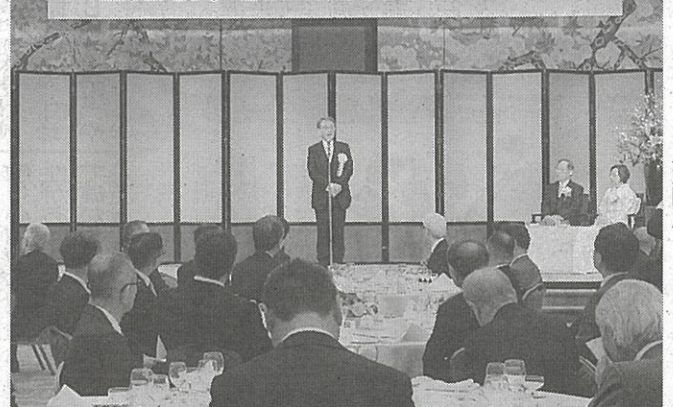
謝辞を述べる大西氏と宇都宮夫人



日本医療衛生新聞

発行所
株式会社 日本医療衛生新聞社
大阪府中央区高麗橋1丁目5番11号
電話 06(6202)5588番
FAX 06(6202)5628番
取引銀行 三菱東京UFJ銀行都島支店

大西健路氏 旭日双光章受章記念祝賀会



150人が臨席

(1面からつづく)

これを受けて、大西氏が謝辞を述べた。「今回の受章は身に余る光栄であり、一生の思い出になる。孫たちから花束をもらい感極まっている。今回の栄誉は本日ご臨席の皆様をはじめ、多くの方から公私ともにご指導賜ったおかげである。社業を支えてくれている社

員の努力、今日まで健康で仕事ができる身体に育ててくれた両親、家内をはじめ家族・親族に支えられてきたことに感謝したい」とした。そして「仕事を通じた取引先の皆様には数えきれないご恩がある。今回の叙勲を卒業証書ではなく合格証書(入学証書)をいただいたものと受け止め、さら

に研鑽を重ねて医療品業界はじめ各団体への発展に貢献していくとともに、恩返しができるようがんばっていきたい」と決意を新たにした。

閉会の辞は、発起人の福井氏(大阪医療品卸商組合副組合長)が登壇、「大西様が医療品業界の発展に貢献し旭日双光章を受章され

たことは、我々医療品業界に携わる者として本当に誇りに思う。芦屋カンツリー倶楽部の理事長という大役を務めておられるが、自然豊かなところで活発に動か

れていることが健康維持につながっていると考える。この受章を機に益々お元気で活動され、今後も医療品業界の発展に力をお借りしたい」と今後の活躍を願い、最後は大阪締めでお開きとなった。

大西氏は1949年、神戸市生まれ。甲南大学法学部卒業。1987年に宇都宮製作に入社し、1990年に代表取締役社長、2019年には代表取締役会長に就任した。また、多くの業界団体で要職を歴任。大阪医療品卸商組合では組合長(2008年～2015年、現在は幹事相談役)、全国医療品卸商組合連合会では副会長(2008年～2015年)の他、西部工業用ゴム製品卸商業組合副理事長(現在は相談役)、大阪ゴム商業会会長、大阪府計量協会理事などを務める。